



令和3年度

学校だより

9月号

～ひとがすき まちがすき いわさきの子～

横浜市立岩崎小学校

電話 331-5123

FAX 331-5343

アスリートたちが教えてくれたもの

校長 小林 雅弘

この夏、予定から一年延期となった東京 2020 オリンピックが開催されました。緊急事態宣言等が発令されている中での開催には賛否も分かれるところとは思いますが、出場しているアスリートたちの、ただ前を見つめ、自らを信じ、精一杯競技に取り組む姿には純粋な気持ちで感動させられました。

多くの種目でたくさんの活躍が見られた今大会でしたが、私が最も心に残った場面は、7月25日に行われた、伊藤美誠選手と水谷隼選手の「卓球混合ダブルス」3回戦のドイツとの一戦です。自宅のテレビで観戦していた私は、その息詰まる一進一退の試合展開に引き込まれ、夢中で日本を応援していました。しかしドイツのペアも強く、試合は最終第7ゲームまでもつれ込みます。最終ゲームで11点をとった方が勝利する、そんな状況の中、日本は1対7までドイツに点差を広げられました。その後6対10となり、あと1点ドイツがとれば日本の敗退が決まるという絶対絶命のピンチに追い込まれます。私は「ああ、もうダメだな。」とつぶやき、テレビを消そうとしました。しかし、伊藤選手と水谷選手はあきらめませんでした。その後驚異の粘りで同点に追いつき、最後は伊藤選手のロングサーブで大逆転勝利をおさめました。2人はその後も勝ち進み、最後はオリンピック史上初となる卓球での金メダルを手に入れました。私はこの二人のアスリートから大切なことを教えられました。

「何事も最後まで けっしてあきらめてはいけない」

口で言うのはたやすいですが、実際にそのような逆境に立たされたときに、本当に最後まで粘り強く、あきらめずに取り組むことができるかということ、それには強い信念や精神力が必要となります。「自分自身はどうか」と改めて考える機会となりました。

昨年度から全面実施となった新しい学習指導要領では、子どもたち自身が主体的に学習に取り組む態度を育むことができるようにすることが示されており、「粘り強く取組を行おうとする姿」を求めています。これからも日々の教育活動の中で、最後まであきらめず粘り強く取り組む岩崎の子を育てていきたいと思いました。

このほかにもアスリートはその姿からさまざまなことを教えてくれます。「目標に向かって努力すること」、「自分の力を最大限発揮しようとする事」、「仲間を心から信頼すること」、「仲間を応援したり一緒に喜び合ったりすること」、「共通の目標に向かって共に力を合わせる事」、「(対戦)相手の心情を気遣うこと」どれも、学校教育の中で子どもたちに育てていきたい態度や行動です。ただひたむきに競技と向き合うアスリートの姿から、多くのことを学んだ夏でした。

オリンピックは閉幕しましたが、続いて東京パラリンピック 2020 が開幕し、連日熱戦が繰り広げられています。アスリートたちは、今度はどんなことを私たちに教えてくれるのか期待しながら、毎日応援をしています。